

女性の起業のかたち

7月中旬に10年程前から交誼しております女性のHさんからメールを頂きました。件名に**新会社設立のご挨拶**とありました。頭書には、このたび「株式会社〇〇〇〇研究所」を設立、新たにホームページを立ち上げましたので、ここにご報告いたしますとあり、続いてホームページのアドレスが続きます。このお知らせで私は、Hさんも「いよいよ満を持してのスタートだな」と改めて感慨深いものを感じました。

Hさんとは、彼女が求人広告専門の広告会社の研究部門に勤務時に、弊社のある事業のスタッフ募集の折に営業マンを通して「わたしのお客さま」のテーマで取材を受け、適確な取材記事と評価し、実力を認めてからのご縁でした。

彼女はその後最終的に同所の所長まで勤めあげ6月末日で退職しての起業でした。ホームページの代表者ごあいさつを拝見しますと、**その職場や業務でそれぞれ関連するさまざまな経験と実績を積み、その延長線上に独立し、新会社設立の運びになったのだと**理解されました。

そして、興味を覚えたことは会社設立に際しての会費制の簡単なお披露目の会を催したいので、詳細の申込はとアドレスがあったことです。それも誰れでもと云うのではなく、60名限定、事前申込み、参加メンバーも承認が必要とのことでした。これまで数多くの新会社設立の挨拶やその創立パーティーへの案内を頂きましたが、ネット時代にふさわしいこの新しい形式に、なにごととも時代の変化と共にあることを痛感し、出席の返事をメールにて返信いたしました。

今回のお知らせ頂いたご挨拶のホームページには新会社やHさんのこれまで知り得なかった個人情報が沢山盛り込まれており、良く理解することが出来ました。

「満を持しての起業」と私が感じたのは、これらの情報を拝見したからなおのことですが、当然のことながら過ぐる日、Hさんはいつか自分は起業するとの熱い思いがあって、そのための努力をひたむきになさった結果だと、確信させて頂くことが出来ました。

他に身近な女性の方々のなかで、現在起業なさってご活躍中の方々の起業に至る過程のいくつかを参考までに要約して紹介します。

M. Tさん (メンタルに特化したプロのサポート業務、コーディネイト、イベント企画)

私は10代の頃から事業を興すこと考えていました。社会人経験を積んでから起業をしようと思っていたので、大学卒業にアパレル業や出版業で働いたのち、フリーランスのライター・プランナーとして独立しました。その後、31歳で結婚、33歳で当時住んでいた大阪・吹田市商工会議所の創業塾を受け、徐々に事業内容を固めはじめました。(以下略)

E. Nさん (企画、書籍の編集、ツアーやイベントの企画)

創立100年を超え、会員数は多い時で10万余という大所帯の大学同窓会の事務所に籍を置いて17年余り、私はその大半を会報の編集、講演会の企画、講師付きツアーの立案に従事させていただきました。

部下も付き、そろそろ自らの采配を振るえるようになった頃、「なんで独立?」とは仲間や友人から言われた一言。下町生まれでおきゃんな性格は、「現場が大好き」だったんです。(以下略)